

教育長 殿

宮城県中新田高等学校
校長 桑折 信也 印

平成30年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

① 生徒の基礎的な学力の定着と主体的学習者を支援する。
② 生徒の規律ある学校生活を支援する。
③ 主体的な進路選択と進路目標が達成できるよう支援する。
④ 学業と部活動等との両立を支援する。
⑤ 信頼される学校づくりを推進する。
⑥ 校務処理を改善する。

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 学習への興味関心・意欲を高める授業計画及び授業実践を行い、言語活動の充実を図るとともに、生徒による授業評価、公開授業研究、自己評価等を通して授業の改善・指導力の向上に努める。	B	授業計画に基づいて授業実践を行っているが、生徒の興味関心・意欲を引き出し、思考力を育むような授業展開は十分にできてはいない。授業実践を通して主体的な深い学びに迫ることができるように指導者の授業力を高めていく必要がある。今年度設置した「学力向上プロジェクトチーム」で検討を加え、基礎学力向上策を提言していく。	B	B
	② 生徒の家庭学習習慣を定着を図るため、「システム手帳」を使ってPDC Aサイクルを意識した計画的な学習を通して自立した学習者を育てる。	C	生徒の家庭学習時間は伸びていない。システム手帳の意義を全教職員で意識し、有効的な活用方法を指導・支援していきながら定着させていく必要がある。	B	B
	③ 学校設定教科「キャリアプラン」の充実を図るため、キャリア・総合委員会を中心に工夫・改善を行う。	B	キャリアプラン実施学年の負担が大きく、キャリア・総合委員会が主導的なアドバイスを行うまでには至らなかった。キャリア・総合委員会を定期的に開催し、計画立案や実施について十分に話し合いながら実施する必要がある。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	朝読書を実施しているが、面接練習時に「薦める本は？」や「感銘を受けた本は」などの質問に答えられない生徒があるので朝読書の取り組み方に工夫が必要である。また、家庭学習の定着については家庭の協力も必要であるので働きかけを強化した方がよい。				
生徒指導	① 明るく元気な挨拶と制服の正しい着こなしの励行を促す。	B	生徒会の生徒が中心となり、自主的に朝の登校時に正門前で挨拶を励行した。また、生徒指導部の職員が定期的に登校指導を行いながら、挨拶と制服の着こなしについて声かけを行った。教師からの働きかけがなくても正しい着こなしやあいさつができるように丁寧に指導していく。	B	B
	② 日常の校内清掃の徹底を図り、学習環境の整備を行う。	B	概ね清掃は厭わず行っている。床のぞうきん掛けは伝統的に行っているので継続できるように声かけ指導をしていく。	B	B
	③ 不登校傾向のある生徒や特別な配慮を必要とする生徒の早期発見に努め、家庭の協力を得ながら、SC・SSW・特別支援コーディネーターと連携し、適切かつ組織的な対応を行う。	B	不登校の生徒が今年度も数名いたが、SC・SSW・特別支援コーディネーター・心の支援員の協力を得て円滑に対応することができた。また、県立支援学校の地域支援員の先生の協力を得て、特別な配慮を必要とする生徒に対して適切なアドバイスをいただきながら支援・指導することができた。様々なアドバイスについて全教職員が理解し、共通行動に移せるように努めていく。	B	B

学校関係者評価委員会における意見	自己意見をはっきり言える子はあいさつやマナーについてもしっかりできている。社会に出る土台づくりは家庭を巻き込んで協力的に行うとよい。					
進路指導	①	3年間を見据えた進路指導方針・計画を定め、時機を逃さない指導と進路意識の高揚を図る。	B	1・2年次のキャリアプランを学んだ上で3年次は進路先のマッチングを円滑に行うことができた。一人一人の進路意識の高揚を図る手立てをさらに工夫していく必要がある。	B	B
	②	生徒の進路希望等に応じて、課外学習・小論文指導面接指導・資格取得に関する講習及び模擬試験等を効果的に行い、個に応じたきめ細かい進路指導を行う。時に、進学者の模試の分析を詳細に行い、適切な指導を行う。	B	スタディーサポートの分析会に業者を招いて行い、データ分析の方法を図り、職員の研修を行った。まだ分析は十分とはいえない。指導・支援に当たる教師の意識を高め、個に対応できる指導・支援の方法について研修を通して身に付けていく必要がある。	B	B
	③	就職先企業調査によって、就職に必要な適性・能力について研究し、上級学校への進学後に就職する者を含め、就職時のミスマッチをなくし、早期離職防止に努める。	B	今年度も地域の人たちの協力を得て、就職者模擬面接会を行ったのは効果があり、生徒の意識を高めることができた。今後もさらに協力を求めて幅広い進路指導の充実を図る。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	就職が半数以上を占める学校のため、卒業後に何を目標にするかを入学時から段階踏んでしっかりと考えさせるべきである。					
地域に開かれた学校づくり	①	「中高だより」、ホームページ、PTAだより、学校公開等により、保護者・中学校・地域に本校の教育活動を積極的に発信し、理解と協力が得られるようにする。	A	ホームページの更新の校内体制づくり、迅速な更新を行うことができた。保護者に学校の情報を提供するため、各学年PTAを秋に行った。また、春・秋に地域の中学校を訪問し、広報活動を行った。様々な情報発信方法を活用して、本校の特色や取組を理解してもらえるように努める。	B	B
	②	社会人講話・加美町研究・職場体験・ボランティア活動など地域の教育力を活用した教育を行い、主体的に地域に関わる生徒を育てる。	B	1・2年のキャリアプランで地域の協力を得、ボランティア活動も行い、地域の信頼を得ることができた。地域が主体となって取り組む活動に生徒を積極的に関わらせ、活動を通して主体性が身に付くように働きかけていく。	B	B
	③	魅力ある県立学校づくり支援事業を効果的に活用し、地域・大学の支援を受けながら協働性を身に付けさせ、自己有用感を高める。	B	今年度から宮城大学の先生・学生の支援を得て、協働性を育むことができた。考えを深める機会を十分に確保して、地域に必要な施策が提言できるように指導していく。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	中新田高校が地域に必要とされる・地域になくはない学校として未来に存続するために、これまで以上に地域との連携を密にして特色ある学校として「ブランド力」の強化に努めていただきたい。					

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 生徒自らが積極的に諸活動に取り組もうとする気持ちを喚起する工夫	生徒一人一人が日常的に取り組む活動において、前向きに取り組んでいる姿を見逃すことなく褒めることで、自己有用感や自己有能感を感じさせ、自己肯定感を高める声かけを全職員で意識的に行う。
② 家庭学習の習慣化をうながし、学力の向上と学ぶ意欲を引き出す授業の工夫	校内研究の充実と授業研究を実施して、教師の授業力向上を図るとともに、既習内容を確認できる学習課題を意図的に与えながら、家庭学習の習慣化を働きかける。
③ 生徒が相談しやすい環境づくりといじめ防止に向けた積極的な情報収集	生徒や保護者、教員がSCやSSWと相談しやすい環境づくりを、特別支援コーディネーターが中心となって調整し、必要に応じて情報を教職員全体で共有しながら人間関係のトラブルを早期に解決が図れるようにする。また、学級担任との教育相談の機会を秋にも設定することで、一人一人の生徒理解を確かなものにする。